

# 埼玉県地球温暖化防止活動推進センター センターだより



No.5

発行責任者 ● NPO法人環境ネットワーク埼玉



## 目次

代表理事およびセンター長が変わりました

<環境ネットワーク埼玉からのお知らせ>

1. 特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉総会を開催しました
2. 特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉の見学研修会を開催しました

<埼玉県地球温暖化防止活動推進センターからのお知らせ>

1. 山村国際高校(坂戸氏)において環境学習を実施しました
2. カーボンマイナス県民フォーラムの展示会を開催しました
3. 「エコウェーブSAITAMA2008」に参加しました

<地域・会員活動報告>

1. 東埼玉地域温暖化対策協議会を発足させてました
2. 映像で地球環境を考える「さいたまエコシアターin Summer 2008」を開催
3. 会員紹介コーナー 団体正会員(企業)会員紹介 三和流通産業株式会社  
コラム「エコライフと地球温暖化の関係 その1～地産池沼と温暖化～

<事務局からのお知らせ>

## 代表理事およびセンター長が変わりました

平成20年6月21日(土)に開催された総会において代表理事が交代となりました。

### 江田元之 新代表理事あいさつ

ただいまの総会で代表理事という重責をいただくことになりました。よろしくお願ひいたします。幸い、今までの理事の方々がそのまま残っていただくということですので、ご指導いただきながら後継を務めさせていただきます。よろしくお願ひします。

20年度は激動の年と事業方針の中にありますが、経済界では節目が変わったという言葉が使われているように大きな転換期と考えています。理事の皆さん、会員の皆さんと一緒に一歩一歩地球温暖化防止に向けて一生懸命やっていきたいと思っております。

また、昨年スタートした埼玉グリーン購入ネットワークの会長をさせていただいておりますので、合わせていろいろな形で連携できればと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

最後に、これまで長年にわたり重責を勤められた上田 隆一さまに今後ともご指導をお願いするとともに、新たな部門で重責を担われるということですのでご活躍をご祈念いたします。



## 〈環境ネットワーク埼玉からのお知らせ〉

### 1. 特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉の総会を開催しました

平成20年度の総会を6月21日（土）に大宮ソニックシティ602会議室において開催しました。総会に先立ち経済産業省関東経済産業局資源エネルギー環境部総合エネルギー広報室の石原 優係長より「日本のエネルギー事情」と題して基調講演をいただきました。

コメント

- 日本のエネルギー消費は、民生・運輸部門で増加（原油換算）  
1973～2005年度のエネルギー消費の伸びでは、民生部門で2.6倍、運輸部音で2.1倍、産業部門で1.0倍となっています。  
\*民生の家庭部門では、第一次石油ショック時比較2倍以上、業務部門では、3倍近くエネルギーを消費しています。

- 温室効果ガスは、エネルギー資源、中でも化石資源の燃焼により排出されます。したがって、これまで日本が進めてきた省エネルギーとエネルギー資源の多様化の取組を地球規模で進めることが、世界全体の排出量の抑制に大きく役に立ちます。



環境ネットワーク埼玉理事および関係者

### 平成19年度事業報告概要

- ①普及啓発・相談事業では、☆エコライフDAYは61万人参加（説明会・報告会を開催、年度末に報告書を配布）☆センターでの相談助言の他、小中学校への出前講座を実施。☆主体間連携モデル推進事業省エネ住宅（環境省委託事業）さいたま市を中心に省エネ住宅の導入促進、アンケート調査、フォーラム、見学会を開催 ☆地域セミナーの開催（ふじみ野市、さいたま市、熊谷市、和光市）☆企業向け環境経営セミナーの開催 など
- ②個人・団体の支援交流促進事業では、☆温暖化対策「一村一品知恵の環づくり」事業☆環境マネジメントシステム支援事業  
☆森林保全の見学会開催 ☆エコドライブの推進 ☆環境カウンセラー研修 など
- ③指導者育成では、☆実践活用研修 ☆推進員ステップアップ研修（専門研修）☆現地指導型研修 ☆推進員基礎研修  
☆推進員企画コンペ☆インターンシップの受け入れ など
- ④調査研究および情報提供では ☆センターだより等の発行☆ホームページ・環境ネットワークプラザ等運営普及啓発資料の作成 など

### 平成20年度事業計画

- ①普及啓発・相談事業では、☆エコライフの推進（説明会・報告会を開催、年度末に報告書を配布）☆環境相談助言事業（センターでの相談助言、小中高等学校への出前講座、事業者相談）☆省エネ住宅の普及啓発 ☆地域セミナーの開催 ☆企業向け環境取組啓発セミナーの開催 など
- ②個人・団体の支援交流促進事業では、☆“冷やせ！彩の国”フォーラムの開催（一村一品知恵の環事業のコントロール発表の場）☆カーボン・マイナス県民フォーラム展示会の開催 ☆各種展示会への参加 ☆環境マネジメント支援事業 ☆見学会の開催 ☆NPO活動支援事業 など
- ③指導者育成では、☆地域研修（熊谷市、川越市、朝霞市、越谷市、さいたま市で開催）☆専門コース別によるOJT（ファシリテーション研修、エコドライブ、省エネ住宅、省エネ家電、地産地消）☆推進員ステップアップ研修（専門研修）☆現地指導型研修 ☆推進員交流研修 ☆インターンシップの受け入れ など
- ④調査研究および情報提供では、☆センターだより等の発行 ☆ホームページ・環境ネットワークプラザ等運営 ☆パネル作成 など



## 2. 特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉の見学研修会を開催しました

個人正会員 深谷市 福永 幸治

平成20年8月6日（水）毎年恒例となりました環境ネットワーク埼玉の見学研修会を開催しました。今年は、環境ネットワーク埼玉独自の企画として、茨城県にある（1）アサザプロジェクト活動について（2）アサヒビール茨城工場の環境への取り組みについて学習することです。参加者は40名でした。

午前中、アサザプロジェクト活動内容を2か所訪れました。まずは、石岡市植生再生地区（国土交通省との共同事業）です。霞ヶ浦を国交省が水害防止の為、湖岸全域をコンクリートによる護岸工事を行ったため、水質浄化の水草が全滅してしまいました。周囲からは汚水が流れ込み、湖は富栄養化が進み湖面一面にアオコが繁殖して死の湖と化しました。国も対策に困っていたところ、アサザプロジェクトを率いるNPO法人アサザ基金代表の飯島理事長が浄化対策として、沖に波消し粗朶を埋め込み、植物を波から守り、岸側に水質浄化作用のある水生植物（葦、アサザ等）を育成する事を提案しました。その後、国、県、地域住民、学校関係、森林組合、漁業組合関係者などの同意と協力を得て1995年から協働事業が始まりました。再生に際しては、良い環境の時の霞ヶ浦自然界のデータはなく、

年配者の当時の話を聞く事から始まりました。粗朶は周囲の森林の間伐材を、アサザの育苗は協力者や各学校（約170校）に設置されたビオトープで育てられました。これまで植え込みが終わったのは、5～6km（全体250km）ですが100年後を夢見て頑張っているとのこと。最近では鳥や魚も戻り、水草等も徐々に回復しているとのことでした。

次に谷津田再生地です。ここは里山である田んぼ、畑、山林、水源地（3箇所の水源）の里山に立地した湿地体耕田を復元させるために、CSR・社員のリクレーションの一端として、アサザプロジェクトと日本電気⑭のコラボレーションで社員及びその家族（約200人）を中心に、田植え、草取り、刈り入れまでを、全て手作業、無農薬で生産し、収穫した米（日本晴れ）は酒造会社の協力で、清酒（白菊）を作っています。農作業の終わりには郷土芸能や音楽会などのリクレーションが開かれ参加者は楽しんでいるとのことでした。

午後は、アサヒビール茨城工場の環境への取り組みについて視察しました。工場のご配慮で、試飲をさせていただき、和やかに見学研修会を終了することができました。



霞ヶ浦の植生再生について説明を受ける



谷津田再生地をバックに記念撮影

## 3. 事業者相談会の一部変更のお知らせ

これまで毎週火曜日に実施していました事業者相談について、上田 隆様のご協力いただきながら進めてきました。

今回、一部見直しをして、原則2回／月とすることとしました。事前にご予約の上、ご来館下さい。詳細は下記のとおり

	開催日	相談者	相談内容
1回目	第一火曜日	本橋 亮一	省エネを主体に
2回目	第三火曜日	上田 隆一	環境全般

## 4. インターンシップを受け入れました

夏休みに環境学習を体験するために跡見学園女子大学の学生2名がインターンシップとして参加しました。今後とも大学との連携を深めて社会体験の場として参加していただきたいと思います。



説明を受ける大学生

## 〈埼玉県地球温暖化防止活動推進センターからのお知らせ〉

### 1. 山村国際高校（坂戸市）において環境学習を実施しました

山村国際高校では環境学習およびエコライフDAYに学校全体で積極的に取り組みを進めています。

平成20年4月8日（火）坂戸市にある山村国際高校の2年生と3年生に環境学習を実施しました。まず、全員で体育館に集合し、秋元事務局長による「地球温暖化の実態と自分たちにできること」についての講演を行いました。その後、地元の推進員6名の協力を得て、クラス毎にワークショップを行いました。参加した生徒からは、何となく話を聞いているが、他人ごとのように感じていた。「改めて直接話を聞いて、今日からできることから始める」という決意を新たにすることをコメントもありました。7月16日（水）には同様の内容で1年生に対しても環境学習を実施しました。今後も連携を深めて行きたいと思えます。



熱心にワークショップに取り組む生徒

### 2. カーボンマイナス県民フォーラムの展示会を開催しました

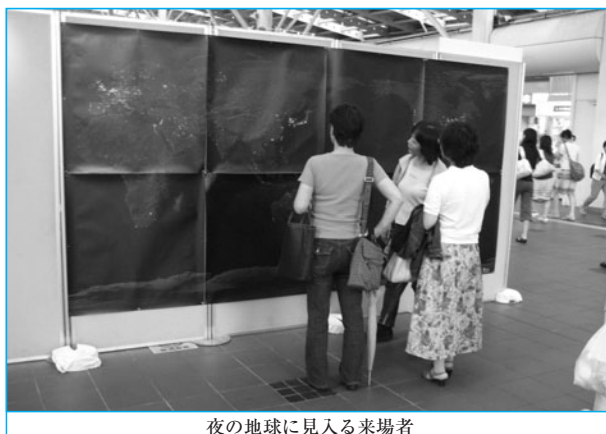
平成20年6月12日（木）埼玉会館大ホールにおいて埼玉県、埼玉県地球温暖化防止活動推進センターの主催により「～洞爺湖サミット目前！地球温暖化対策 埼玉からの発信～」と題してカーボン・マイナス県民フォーラムを開催しました。埼玉県地球温暖化防止活動推進センターでは、大ホールホワイエにおいて①エネルギー②グリーン購入③3R④交通⑤行政⑥市民団体等の分野で47の企業・自治体・団体等に参加していただきパネル展示を実施しました。当日は、大雨にもかかわらず、1000人を越す方々に来場していただき温暖化問題への関心の高さを感じました。



大いに盛り上がるパネル展示会場

### 3. 「エコウェーブSAITAMA2008」に参加しました

本年は、京都議定書の履行期間の初年度であり、また「洞爺湖サミット」が開催されたことから、地球温暖化防止に向けた世論は一層の高まりを見せています。八都県市では、サミットの初日である7月7日（月）（七夕）に、一斉消灯やキャンドルナイトなどによる地球温暖化防止一斉行動（エコウェーブ）を実施しました。埼玉県内では、で「エコウェーブSAITAMA2008」（埼玉県、さいたま市主催）と題し、市町村・企業・県民・市民・団体等が連携し、一斉消灯によるアピールを行いました。埼玉県地球温暖化防止活動推進センターでは、さいたま新都心駅東西自由通路におけるパネル展示に参加するとともにけやき広場でのキャンドルナイトにも参加しました。



夜の地球に見入る来場者





## 〈地域・会員活動報告〉



### 1. 東埼玉地域温暖化対策協議会を発足させました

(第8回環境まちづくりフォーラム：平成21年3月14日)

東埼玉地域温暖化対策協議会 事務局長 島崎 允行

このたび、西部地域に続き、越谷市、草加市、三郷市、八潮市、吉川市、松伏町の5市1町の推進員を主に、東埼玉地域温暖化対策協議会（会長 鈴木 裕万）を5月に発足させ、その記念イベントとして「第8回環境まちづくりフォーラム・埼玉」を開催することになりました。フォーラムは、今春オープンした越谷レイクタウン、元荒川隣接の越谷中央公民館にて、“水とみどりのまちづくり”をテーマに展開する予定となっています。又、合わせて協議会の設立総会を予定しており、皆様の参加と支援をお願いしています。フォーラムは①リサイクル、②自然環境、③食と地産地消、④住宅・家電・交通、⑤温暖化防止の5分科会を5市1町で分担します。市単位で分科会を分担する事で推進員の結束がより深まり、このフォーラムを起爆剤として地域一体となって活動を続けられるようにしたいと思っています。

### 2. 映像で地球環境を考える「さいたまエコシアターin Summer 2008」を開催しました

東京ガス(株)埼玉支店 土屋ひろみ

さいたまエコシアターin Summer 2008実行委員会は8月25日（月）、浦和コミュニティセンター多目的ホールにおいて、「さいたまエコシアターin Summer 2008」を開催しました。環境共生都市であるさいたま市で、市民の力を合わせて地球環境を考えるイベントを開催しようと、埼玉県環境部、さいたま市、埼玉県地球温暖化防止活動推進センターと東京ガス埼玉支店が協働で企画したものです。アース・ビジョン地球環境映像祭の優秀作品上映や世界環境写真展、集会室では子どもエコクラブや各団体等の活動のパネル展示などを行いました。また、第16回アース・ビジョン地球環境映像祭の最優秀作品「水になった村」の大西暢夫監督をお招きし、15年間にわたった取材の日々と作品への想いを語っていただきました。その他3作品を上映し、約200名の方の参加がありました。

### 3. 今回から会員紹介のコーナーを設けました。団体正会員（企業）会員紹介

環境理念



#### 三和流通産業株式会社

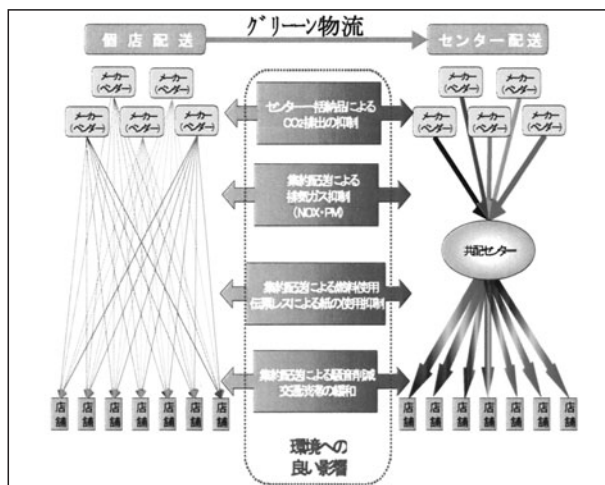
- ・所在地：〒338-0286さいたま市桜区大字大久保領家700-1  
TEL 048-858-7700 FAX 048-858-7726
- ・代表者：代表取締役社長 竹本 行雄
- ・設立：昭和29年1月17日
- ・資本金：4.5億円
- ・株主：日本ミルクコミュニティ(株)
- ・事業内容：日配チルド食料品等の卸売事業 3拠点  
共配センター事業（主にチルド食料品）7拠点
- ・企業理念：「栄養とおいしさ」を、お客様の心に  
「最高の鮮度」でお届けします。

#### 20年度環境目標

経営指標に関連した指標による測定方法を円滑に行えるようにし、分析、検証を行う。

- 電気使用量の効率化
- 車両燃費の効率化
- 紙使用の効率化
- 燃えるごみの排出量の削減
- 物流の効率化＝グリーン物流

当社は、食品流通産業として、地球環境保全が人類共通の重要課題であると認識し、コア事業である食品卸業と共配事業を通し、グリーン物流に積極的に取り組み、地域や社会から信頼される企業を目指します



## コラム「エコライフと地球温暖化の関係 その1」～地産地消と地球温暖化～

今号より数回シリーズで、身近なエコライフがどのように地球温暖化防止につながってくるのかについてお話をしたいと思います。第1回目は“地産地消”。もともとは、「その土地で生産されたものをその地域で積極的に消費していこう」という考え方ですが、このような買い物の仕方が温暖化防止にどのように関係してくるのでしょうか。

日本の食料自給率は、カロリーベースで39%（平成18年度）。食品別では（重量ベース）、豆類7%、果物類41%、肉類54%、魚介類50%、小麦14%です。これらのデータから分かるように、沢山の食べものが飛行機や船を使って外国から運ばれてきており、この輸送時に大量のエネルギーが消費されCO<sub>2</sub>が排出されています。

食べものの輸送距離を減らそうということから、イギリスで「フード・マイレージ」という概念が生まれ世界に広がっています。日本でも大地を守る会がホームページ上で「フードマイレージ・キャンペーン」を行っており、70種類の食品の、国内外の主な産地からの輸送距離と輸送に伴うCO<sub>2</sub>排出量のデータが調べられるようにしています。（HPアドレス <http://www.daichi.or.jp/>）

例えば1カップ（130g）の大豆について、アメリカ／ノースダコタ州からの輸送距離は10929km、CO<sub>2</sub>排出量は88g。北海道からの輸送距離は831km、CO<sub>2</sub>排出量は18g。CO<sub>2</sub>差は70gです。これは、60Wの電気を約3時間以上消した場合のCO<sub>2</sub>に相当します。こう考えると、地産地消は大きなCO<sub>2</sub>削減につながるのをおわかりいただけるかと思います。



地産地の八百屋さん

## 〈事務局からのお知らせ〉

### 1. “センターだより” の原稿募集について

“センターだより”を半年ごとに発刊することで進めています。当団体の行事や地域や会員団体・企業でのいろいろな活動について原稿を募集しています。是非皆様からの原稿をお待ちしております。

### 2. 特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉会員募集について

（申込みに関する詳細につきましては事務局までご連絡ください。）

正会員(1口当たり)

会費種別	個人会員	団体会員(非営利)	団体会員(企業)
年会費	5,000円	5,000円	50,000円

賛助会員

会費種別	個人会員	団体会員(非営利)	団体会員(企業)
年会費	2,000円	2,000円	10,000円

### 3. ホームページについて

当センターではホームページを開設しています。その中にある「環境ネットワークプラザ」には、埼玉県内をはじめとするイベント情報や当団体会員名簿、環境保全団体名簿、協働や助成金の情報を掲載しています。

環境ネットワーク埼玉理事 浅羽 理恵

また、交流スペースとなっていますので、情報、事例など、どんな小さいことでも構いませんのでどしどしお寄せください。連絡先は、[info@kannet-sai.org](mailto:info@kannet-sai.org) まで



## 編集・発行

発行日 2008年9月25日

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター／特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉

さいたま市大宮区桜木町1-7-5 大宮ソニックシティビル30階

TEL: 048-649-8087 FAX: 048-649-8088 <http://www.kannet-sai.org/>

開館日・時間 平日、土・日、祝日 午前10時～午後6時（水曜日休館）

場合によっては、臨時休館日があります。情報やお知らせ等、是非お寄せください。